

持続可能な排水処理を世界に

東浜工業株式会社は、独自開発のターボブロワにより、産業排水・下水処理施設のエネルギーコストの20%削減を実現した。



「これからもモノづくりを通して社会に貢献し、自然環境を保全していきたい。」

東浜工業株式会社 代表取締役社長 浜崎泰史

ロータリーベーンブロワの国内最大手メーカーとして、過去数十年にわたり日本の環境と産業の発展に貢献し、近年は中国への進出により、さらに大きな規

模でその役割を果たしている。

同社のロータリーベーンブロワは、50年以上にわたって産業界や地域社会におけるオンサイト排水処理の曝気用として使用されており、生産実績は400万



東浜工業

台以上にもなる。世界的なエネルギー・気候危機が迫っている中、このブロワは持続可能なソリューションとしても重要な役割を担っているのだ。

「主力製品のターボブロワは、従来使われてきたブロワと比較してエネルギー使用量を約20%削減し、世界のCO2排出量削減に貢献しています。現在、日本には約2,000ヶ所の下水処理場があり、そのランニングコストは3兆円にのぼります」さらにその半分がブロワによる電気代



TXターボブロワ

であると代表取締役社長の浜崎氏は指摘する。



ロータリーベーンブロワ

「電気料金を20%削減できれば、約3,000億円の大幅なコストダウンが実現できます。省エネ効果により、イニシャルコストは2~5年で回収できますので、費用対効果が高く、同時にCO2削減という社会的なメリットも大きいと確信しています。」

今後、東南アジアやインド、アフリカでも、同様に排水処理システムの構築や改善が必要になるという。「その時、東浜グループが日本や中国で行ってきたように、モノづくりを通じて社会に貢献していきたいと考えています。」



www.tohin.co.jp